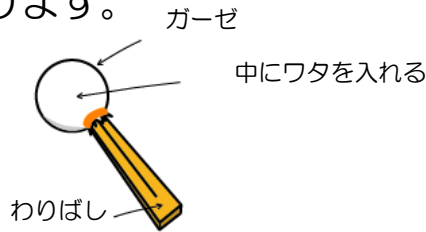


食べ物のしみ抜き方法

※家庭で洗える衣類に限ります。

※必ず目立たない所で試してから行ってください。

1. しみ抜き棒を作ります。

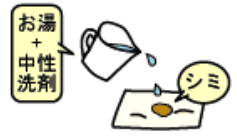


一握りのワタに割り箸をさしこみ、ワタの部分をガーゼで包み込み、口を輪ゴムでとめます。

2. ぬるま湯に中性洗剤を適量入れよく混ぜ、しみ抜き洗剤を作ります。



3. タオルをシミの下にひき、シミにしみ抜き洗剤をつけて、しみ抜き棒のガーゼ部分でたたき出します。



この時、絶対にこすらないでください。



それでもまだシミが残っている時は、少ししみ抜き洗剤を濃くしてシミにつけてたたき出します。

シミがとれたら洗濯機で洗ってください。

衣類のしみ抜き方法あれこれ

※家庭で洗濯できる衣類にかぎります。

★綿100%なら煮洗い

- ・水…1リットル
- ・粉せっけん…小さじ2
- ・酵素系漂白剤…小さじ1

を良く溶かし、衣類を入れて煮る。

★重曹をシミにふりかけ、お酢をかけ、シュワシュワ泡がでてくるので、ヤカンの蒸気を15～30秒あてて、水で流す。

★まずは石けんとぬるま湯でよくこする。

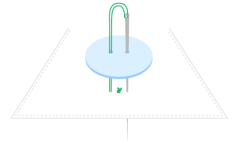
それでも落ちないなら、漂白剤と重曹を少しずつ混ぜ、シミの部分へ塗る。

つけ置き可能なら多少時間をおく。

その後、すぐ洗濯する。

ボタンつけの方法

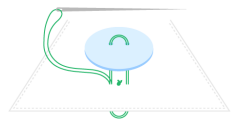
1. 糸を2本どりにして玉結びを作り、ボタンをつける位置の布地を表からすくいあげ、ボタンの穴に糸を通します。



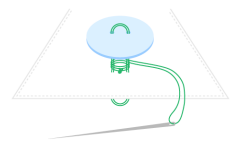
2. 2つあるボタン穴に針と糸を3~4回通します。

つけた後にボタンをはめやすいように、布地の厚み分ボタンを少し浮かせ、つけましょう。

厚手の布地の場合はボタンと布地の間に別の布地を挟んで作業すると、浮かせやすくなります。



3. ボタンと布地の間に糸を出し、図のように針についている方の糸で何回か巻いて、針を通して固定します。

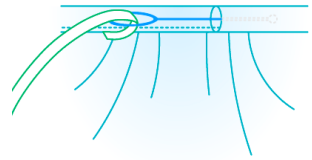


4. つけ根位置の布地を2~3回すくって、布地の裏側で糸を玉止めします。

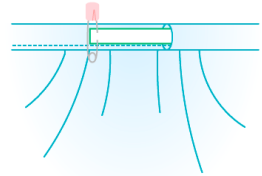


ゴムひもを通す方法

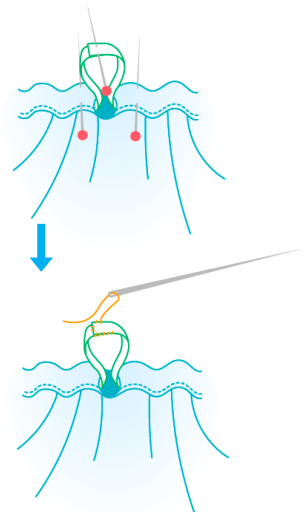
1. ゴムの端にゴム通しをつけて、通し穴の入口から入れていきます。もう片方の端は、切らないでおきます。通していくときにゴムがねじれないように手元を確認しながら注意深く入れていきましょう。



2. 通し終わったらゆるみを均等にしておき、ゴムをしばるか安全ピンなどで仮止めします。長さの調節をします。

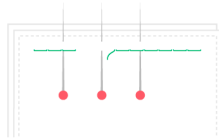


3. ゴムを切り、ゴムの最初と最後の部分を3cm程度重ねて、マチ針でとめて縫い合わせます。ゴムの出入り口もマチ針でとめると、よりしっかり固定され縫いやすくなります。



縫い目のほつれを直す方法

1. ほつれた所を確認して衣料を裏返し、両方の縫い代をマチ針でとめます。



2. ほつれている糸を布の裏側から軽く引っ張って、表にほつれた糸が残らないようにします。不要な糸は切ります。

3. 「返し縫い」で縫い合わせていきます。ほつれた部分から縫い始めるのではなく、ほつれる前の縫い目と5cm重なる位置から返し縫いをしていきます。

4. 縫い終わりも同じように5cm程度ほつれていない部分と重ねて縫い、最後に玉止めを作り、縫い代の裏に隠します。

<返し縫いの縫い方>

1. 糸の端に玉結びを作り、布の裏側から表に向けて針をさします。

2. 1でさした位置よりも後ろに針をさし、図のように布の裏側から針を1.との間隔の倍、前に進めます。

3. 最初に針をさした場所の脇に針を戻します。この行程を繰り返します。

